張田（日光）悲願の初優勝

2位石井（那須塩原）3位後藤（宇都宮）

県アマゴルフ

第37回県アマチュアゴルフ選手権大会（県ゴルフ連盟、下野新聞社主催）は6日、那須塩原市の塩原CC（6905ヤード、パー72）で決勝が行われ、32歳の張田巧（日光）が3アンダー69で悲願の初優勝を飾った。

150選手が出場。張田は3、4番で連続バーディーを奪い、2アンダー34と前半で単独トップに躍り出た。後半の13番パー5もバーディーを奪うと、その後もノーボギーと安定したゴルフを展開。2位に3打差をつけて頂点に立った。

石井 淳二

後藤 貴浩

2位は石井淳二（那須塩原）と、過去2度優勝している後藤貴浩（宇都宮）が並んだが、大会規定（マッチングスコアカード方式）で石井が上回った。

連覇を狙った中川雅俊（鹿沼）は73の5位。注目の三島中3年斎藤旬一（那須塩原）は75の9位に終わった。

痛恨の3連続ボギー

○…2位の石井淳二（那須塩原）は午後の1、2番で連続バーディー。一時はトップを走る張田巧（日光）を抜いて単独トップに立った。しかし直後に3連続ボギーで崩れ、「やっぱり南（アウト）は苦手」と肩を落とした。

ハイライト

光る終盤のパーセーブ

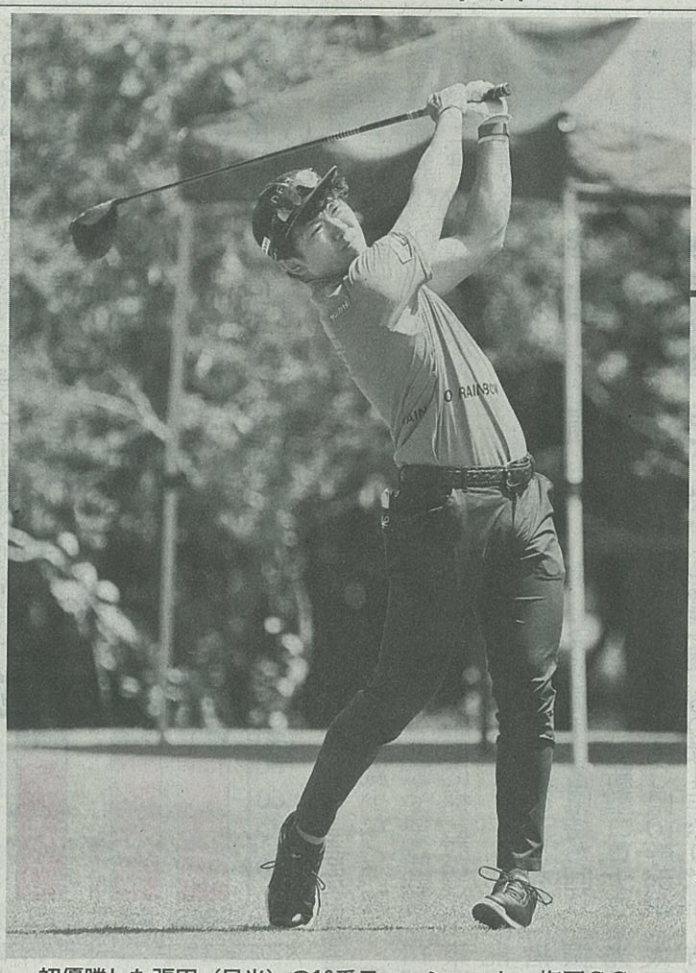
この大会はプレーオフで2度苦杯をなめている張田巧（日光）が悲願の初優勝。「やっと勝てた。今日はノーボギーだからまずまず。うれしいな」と日焼けした顔から白い歯をのぞかせた。

終盤のパーセーブで自らを救った。ドライバーは300ヤード近い飛距離を誇り、パー5では確実にバーディーを重ねるのが持ち味。しかし、この日ロングホールのバーディーは一つだけ。14番パー4（415ヤード）は左の林に入れ、2メートルのパーパットを残した。それでも「カップ2個分切れるライン」をしっかりと読み切り、「あのパーが大きかった」と胸を張った。

5月の国体予選では成年男子に挑戦し、1位で代表の座を勝ち取った。続く6月の関東倶楽部対抗（新潟）でも矢板CCのエースとして活躍。1アンダー71でチームを引っ張り、県勢初の栄冠を勝ち取った。

「調子は上がったり、下がったりの繰り返しだが、いいゴルフはできている」と好調は自覚。さらにウエートトレーニングの成果で身体も一回り大きくなり、「飛距離もアップした」という。

それも知事盃一般男子の部で4度目の優勝という大きな目標があるから。最多は富田昇吾（宇都宮）の4勝。1978年から45年間破られていない。「4勝し、5勝目を挙げたい」。新たな目標を見据えた目は自信に満ちあふれていた。（井上孝男）


初優勝した張田（日光）の10番ティーショット＝塩原CC、河野光吉撮影

【第37回県アマチュアゴルフ選手権大会決勝】

（6905ヤード、パー72）

−3	①張田　巧	（日　光）	69	(34、35)
−0	②石井　淳二	（那須塩原）	72	(37、35)
	③後藤　貴浩	（宇都宮）	72	(37、35)
+1	④本澤　篤	（那須塩原）	73	(37、36)
	⑤中川　雅俊	（鹿　沼）	73	(37、36)
	⑥原　優之介	（佐　野）	73	(37、36)
+3	⑦髙野　聡	（那須塩原）	75	(40、35)
	⑧河本　泰司	（　〃　）	75	(39、36)
	⑨斎藤　旬一	（　〃　）	75	(38、37)
	⑩広島慎太郎	（宇都宮）	75	(37、38)
+4	⑪市村　恵一	（　〃　）	76	(41、35)
	⑫高村　敏行	（鹿　沼）	76	(40、36)
	⑬石川　浩己	（宇都宮）	76	(40、36)
	⑭丹羽　裕樹	（大田原）	76	(40、36)
	⑮馬場　聖哉	（東　京）	76	(39、37)
	⑯栁田　幹一	（那須塩原）	76	(39、37)
	⑰篠原　獅童	（鹿　沼）	76	(38、38)
	⑱佐藤　順	（佐　野）	76	(38、38)
	⑲野口　政夫	（　〃　）	76	(38、38)
	⑳永森　貴行	（宇都宮）	76	(38、38)
	㉑佐藤　健	（　〃　）	76	(37、39)
	㉒大滝　峻真	（埼　玉）	76	(37、39)
	㉓長江　健市	（宇都宮）	76	(37、39)
	㉔添田　克彦	（さくら）	76	(37、39)
	㉕和泉　一夫	（足　利）	76	(37、39)
	㉖村上　啓晃	（日　光）	76	(36、40)
	㉗大谷五一郎	（福　島）	76	(35、41)
+5	㉘篠江　一弘	（那須塩原）	77	(41、36)
	㉙大森　弘幸	（那珂川）	77	(41、36)
	㉚仁部　武士	（埼　玉）	77	(40、37)
	㉛菊地　諭史	（那須塩原）	77	(39、38)
	㉜稲沢　宏之	（　〃　）	77	(39、38)
	㉝橋本　剛	（那珂川）	77	(38、39)
	㉞森川　暖汰	（宇都宮）	77	(37、40)
+6	㉟山本　英生	（　〃　）	78	(42、36)
	㊱鈴木　秀幸	（下　野）	78	(41、37)
	㊲小口　渉	（那珂川）	78	(40、38)
	㊳相馬　義孝	（那須塩原）	78	(40、38)
	㊴西川　忠克	（小　山）	78	(39、39)
	㊵八木　慎太郎	（宇都宮）	78	(39、39)
	㊶青野　浩明	（埼　玉）	78	(36、42)
+7	㊷荒川　知之	（宇都宮）	79	(44、35)
	㊸北川　貴則	（　〃　）	79	(42、37)
	㊹小島　孝則	（　〃　）	79	(42、37)
	㊺大貫　敬司	（　〃　）	79	(41、38)
	㊻久野　貴都	（足　利）	79	(40、39)
	㊼赤羽　弘光	（矢　板）	79	(40、39)
	㊽植木　俊宏	（小　山）	79	(40、39)
	㊾倉持　祉斗	（日　光）	79	(39、40)
	㊿鈴木　克彦	（宇都宮）	79	(38、41)
	(51)多並　一也	（埼　玉）	79	(38、41)
	(52)金沢　太竜	（宇都宮）	79	(38、41)
	(53)巻島　誠	（　〃　）	79	(37、42)
+8	(54)山本　修	（日　光）	80	(43、37)
	(55)酒井　正裕	（那須塩原）	80	(41、39)
	(56)室井　真二	（　〃　）	80	(41、39)
	(57)藤森　正哉	（茨　城）	80	(41、39)
	(58)星　真平	（福　島）	80	(41、39)
	(59)戸祭　康生	（芳　賀）	80	(40、40)
	(60)南　大智	（宇都宮）	80	(39、41)

※同スコア順位は大会規定による。

れ舞台

う開幕

開会式進行　入念に確認

第105回全国高校野球選手権記念栃木大会の開幕を翌日に控えた6日、県営本球場では会場設営や開会式のリハーサルが行われ、県高野連理事や司会を務める生徒らが進行などを入念に確認した。

この日は正面入り口に球児たちを応援する恒例の菊地絵理香がボギーなしの1イーグル、3バーディーの67で回って首位に立った。1打差の2位に仲宗根澄香がつけた。小祝さくら、尾関彩美悠、宮田成華が69で3位。70の6位に、アマチュアの都玲華（Jクラシック GC）、六車日那乃（日本ウェルネススポーツ大）ら7人が並んだ。

本県関係は篠崎愛（上三川町出身）が71で13位、臼井麗香（鹿沼市出身）が73の33位、藤田さいき（宇都宮市）、松原柊亜（鹿沼市出身）が74の45位、吉川桃（那珂川町出身）が75で66位。（賞金総額1億円、優勝1800万円、120選手＝アマ含む＝り時々雨、気温21・南東の風7・5㍍以893人）

▽成績
1日目の理香
67 菊地絵理香
68 仲宗根澄香
69 小祝さくら
69 宮田成華
70 尾関彩美悠
70 沢部子田
70 種子野恵
70 本都
71 六車日那乃
71 篠崎愛（上三川町出身）
5 4 3 3 3 2 2 2 2 2 1 1 1
※13位タイほかに9人。☆はアマ

菊地が首位発進

ミネベアミツミ・レディース北海道新聞カップ第1日（6日・北海道真駒内CC＝6611ヤード、パー72）ツアー通算5勝目の菊地絵理香が、1番のダブルボギーが痛かった。フェアウエーど真ん中から第2打をふかし、右の林に入れてしまった。アメリカには明日（7日）出発します」

24年のF1 日本GP 4月開催に

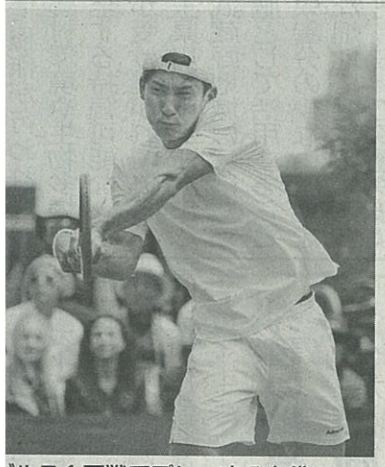
豪州、中国と日程集約

国際自動車連盟（FIA）は5日、F1シリーズの2024年シーズンの日程を発表し、三重県鈴鹿サーキットで開催される日本グランプリ（GP）は4月7日決勝の第4戦として組み込まれた。従来は9～11月に開催されており、春の開催は初めて。3月にバーレーンで開幕戦が行われ、12月のアブダビでの最終戦まで史上最多の24戦が予定されている。

第3戦はオーストラリア、第5戦は中国で開催。F1シリーズは30年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロにするカーボンニュートラルの実現を目指している。アジア、オセアニア地域のレース日程を集約することで移動や物流を効率化し、排出量の削減を狙っている。

鈴鹿サーキットを運営するホンダモビリティランドは「持続可能な未来づくりを目指す当社の基本方針にも合致することから、4月に開催することに合意した」とコメントした。

日本GPは秋開催が通例だったが、1994年にはF1パシフィックGPが4月に岡山県のTIサーキット英田（現岡山国際サーキット）で開催されている。


ルス1回戦でプレーする島袋＝ンドン

貴景が最終調整

相撲を取らず

本調子程遠く

大相撲の大関貴景勝は6日、名古屋市天白区の常盤山部屋で基礎運動を中心に最終調整した。名古屋場所（9日初日・ドルフィンズアリーナ）には出場の方向だが、両膝痛の影響で場所前の稽古では一度も相撲を取っていない。本調子には程遠い様子で、師匠の常盤山親方（元小結隆三杉）は「心配なところはと表情を曇らせた。本格的な夏の到じさせる暑さの中、

稽古で基礎運動名古屋市の常盤

記者会見し、記念写真に納まるWリーグ原田新会長＝東京都内

Wリーグ

2部制移行を発表

24～25年、1部はプレ

14チームで構成するバスケットボール女子のWリーグは6日、2024～25年シーズンに2部制に移行すると発表した。8チームによる1部「プレミア」（仮称）と、6チームの2部「フューチャー」（同）に再編。昇降格制度も導入し、実力が接近したチーム同士の対戦や緊迫した試合を増やし、競技力を上げることなど